（別記様式４）(第35条関係)

飼養保管施設設置承認申請書（新規・変更）

□ 新規　□ 変更　　□ 予備審査　□ 本審査

学　　長　　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　管理者（部局長）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　所属・職名：

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　名：

琉球大学動物実験規則第35条第1項の規定に基づき、下記の飼養保管施設設置の承認について申請します。

申請年月日　　　年　　月　　日 　　受付年月日　　　年　　月　　日　　　　　受付番号

|  |  |
| --- | --- |
| １．飼養保管施設（施設）の名称及び設置場所の概要 | □ 施設マネジメントシステムの施設配置図（様式2）や棟別平面図（様式3）を用いた説明資料の添付 |
| ２．飼養保管施設の管理体制  （飼養者の欄は、飼養者の中に飼養管理の知識や経験が豊富な教職員がいる場合にのみ記入すること。） | <実験動物管理者>  所属　　　　　　職名　　　　　　　　氏名  連絡先  関連資格・講習会等受講歴：  経験年数：  <飼養者>  所属　　　　　　職名　　　　　　　　氏名  連絡先  関連資格・講習会等受講歴：  経験年数： |
| ３．申請内容の  概要  （変更申請の場合、変更内容の概要を記入すること。） |  |
| ４．空調・温度制御・照明設備  （該当箇所の全てにチェックを入れ、適宜情報を記入すること。） | □ 建物内の閉鎖型施設  （例：実験用哺乳動物や遺伝子組換え動物のための飼育施設・飼育室）  □ 空調設備による室内温湿度の制御  　 設定温湿度：  □ 照明設備による室内明暗時間の制御  　 設定時間：  □ 温湿度・水温等の制御のための設備を有するケージ・水槽等  　 設定温湿度・水温：  □ 照明設備による、ケージ・水槽毎の明暗時間の制御  　 設定時間：  □ 自然光や換気窓を利用する半閉鎖型施設、あるいは自然光や外気の温湿度環境に依存する施設（例：畜舎、網室、養殖施設、野生由来脊椎動物のための飼育室）  □ 空調設備を補助的に用いた室内温湿度の制御  　 設定温湿度：  □ 送風・換気・日除け等のための設備（　　　　　 ）  □ 照明設備による補光、ケージ・水槽毎の明暗時間の制御  　 設定：  □ ケージ・水槽毎の、温湿度・水温等制御のための設備（　　　　　）  （陸生動物飼育）見込まれる飼育環境の温湿度：（夏季）　　　 （冬季）  （水生動物飼育）見込まれる水槽内の水温： （夏季）　　　 （冬季）  □ 屋外の飼育エリア（例：放牧地）  □ 施設やケージなどを併用する  □ 日除け・雨除け等の構造（施設やケージを除く） |
| ５．収容動物  （該当箇所の全てにチェックを入れること。） | 収容動物（種）：  □ 実験用に生産された動物　□ 畜産・水産用に生産された動物　□ 野生動物  □ 愛玩用に生産された動物　□ その他 （　　　　　　　　　　） |
| ６．飼育設備（飼育装置やケージ、水槽など）  （該当箇所の全てにチェックを入れ、適宜情報を記入すること。） | □ 実験用哺乳動物  □ SPF動物・免疫不全動物などの高清浄環境下での飼育  □ 個別換気システム　□クリーンラック　　□ビニールアイソレータ  □その他 （　　　 　 ）  □ コンベンショナル環境での動物の飼育  □ 研究用微生物・病原体等を接種した動物の飼育  □ P1A/ABSL1相当 □ P2A/ABSL2相当　□ P3A/ABSL3相当  □ その他 （　　　　）  □ 遺伝子組換え生物 （ゲノム編集生物を含む）  □ 家畜  □ 動物舎（畜舎）　□ 放牧  □ 野生鳥獣、爬虫類・両生類  □ ビバリウム（生息環境を模した環境）での飼育  □ ケージ・ケース等での短期間の飼養又は保管  □ インキュベーター(孵卵・孵化用)　□ 幼生の水槽飼育（両生類）  □ その他（　　　　　　　　　　　　）  両生類の場合の飼育水質維持の方法 （　　　　　　　　　　　　 ）  □ 野生鳥獣　□ 特定動物　□ 特定外来生物 □ 稀少野生動物  □ 遺伝子組換え生物（ゲノム編集生物を含む）  □ 魚類  □ アクアリウム（エンリッチメントの配置によって生息環境を模した水槽）での飼育  □ エンリッチメントを用いない飼育（養殖を除く）  □ 養殖（水産研究）  □ 受精卵や稚魚を得ることを目的とした飼育  □ その他（　　　　　　　　　　　　）  水質維持の方法（　　　　　　　　　　　 　）  　 □ 特定外来生物  □ 遺伝子組換え生物（ゲノム編集生物を含む）  その他 （　　　　　　　　　　 ）  □ 環境エンリッチメントの導入  内容 （　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ）  ケージ・水槽等の構造・材質：  複数の動物種を同一区域や同一飼育室で扱う場合の配慮： |
| ７. 収容数 | （1ケージ・水槽当たりの平均収容数とケージ・水槽の配置数を、必要に応じて説明すること。申請する室内・区域内で扱う予定の動物の種類毎に分けて記載すること。） |
| ８. 衛生設備 | 洗浄設備、消毒・滅菌設備（消毒用噴霧器、オートクレーブなど）や、利用者の手洗い設備などについて、概要を記載すること。界面活性剤、エタノールや次亜塩素酸ナトリウム水溶液など、消毒・滅菌目的で用いる薬剤についても記載すること。また、室内・区域内の清掃道具についても記載すること。 |
| ９. 施設・飼育設備の清掃・洗浄・  消毒・滅菌の方法 |  |
| １０. 廃棄物処理 | 死体等、糞尿等の汚物、感染性廃棄物・医療廃棄物等に分類される廃棄物の処理方法について記載すること。 |
| １１. 周辺の悪影響防止策 | 脱臭装置、防音装置、死体・汚物の冷蔵冷凍保管設備など、周辺の悪影響防止策について記載すること。 |
| １２. 逸出防止対策・逸出時対応策 | 出入口、前室、逸出防止板（例：ネズミ返し）、ネット、柵、窓、排水口、換気口（空調設備を含む）、開口部、ケージ・水槽からの逸出防止策、施錠などについて、概要を記載すること。添付書類で、対策箇所を図示すること。さらに、逸出が起こった場合の対応策を記載すること。 |
| １３. 設備構造の  特記事項  （該当箇所の全てにチェックを入れ、説明を記入すること。） | □ 研究用微生物・病原体等の使用  □ 労働安全衛生上の注意を要する化学物質の実験での使用  □ 特定動物　□ 特定外来生物  チェックを入れた項目に関連する設備構造についての説明： |
| １４. その他の  特記事項 | 学内の共同利用スペース（多目的スペースや共同実験室など）を、恒常的ではなく半年や1年単位などでの一時的な飼養保管施設として管理者が提供する場合に、飼養保管を行う利用者や他の利用者に対して、適正飼養保管の実施や安全確保等に関して指示する内容について、ここに記載すること。 |
| １５．学長承認欄 | 本審査への申請の承認：　　　　年　　月　　日　　本審査の承認：　　　　年　　月　　日 |
| □ 本申請を承認します。  承認番号：第　　　　　　号  琉　球　大　学　長  　　　　　　　　　　　　（公印省略） |

**添付資料**

□ 施設マネジメントシステムの施設配置図（様式2）及び棟別平面図（様式3）を用いた説明資料

□ ４から１４までの内容を説明するための、実験区域や室内の見取図及び資料

□ 飼養保管手順書

□ 逸出防止・逸出時対応マニュアル

□ 緊急時対応マニュアル

□ 特定動物、特定外来生物、稀少野生動物の輸送や飼養等に関する許可証のコピー （該当する場合のみ）

□ その他の資料 （　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）